

内湾が死にそうだという怖い話 石原義剛

アサリは、伊勢湾の三重県側で最高時に年間一万五千トンもあったのが、減り出して三千トン程度まで落ち、低位安定していたのだが、最近さらに急激に減っている。

伊勢湾は中華鍋のような形のもっとも深いところで38メートルほどの海だが、その中央部から、広範囲にわたる水域にほぼ6月から10月にかけて「貧酸素」が居座る。要するに夏期には伊勢湾の中央部には無酸素に近い状態が広がるのだ。

伊勢湾の海底はヘドロと漂着ゴミで覆われている。

伊勢湾の海水の溶存チッソ量が少しづつ減っている。赤潮が減ったという報告と栄養分が不足だという見方がある。

伊勢湾へ流入する水のほぼ70%は木曾三川からの水で、一年半に1回の割合で外海へ出て行くが、木曾川には多数のダム、長良川には河口堰、揖斐川の上流に徳山ダムが最近できた。近年、局地的な集中豪雨があちこちを襲い濁流となって海へ注ぐ。

伊勢湾の干潟と藻場が壊滅したことは、すでに40年前には知られていた。

伊勢湾でも最近年、海水温度の上昇がはっきり記録されだした。

伊勢湾の漁業は、漁船・漁具の発達、魚介類の高値で乱獲がつづいた。

アサリ激減の原因はなにか、考えられてきた原因を右に並べて見た。

そこで伊勢湾西岸を歩いて見たら、今年になってアサリが久しぶりに見えだしたと聞いた。生きものの種の保存能力は凄い。右のような環境変化に耐えて生きようとする。しかし、海なる自然の再生力は伊勢湾をアサリの住める環境に戻してくれるか。

海頼みで人さまは手を拱いているだけか。